

**ベネトン グループ取締役会 1-9 月期決算を承認**  
**ベネトン グループ連結売上高**  
**14 億 9 千百万ユーロ**

- 前四半期に決定された出荷日程の変更を背景に、第 3 四半期は予想通り、堅調な収益パフォーマンスを記録(+13.1%)
- ベネトン グループ 1-9 月期売上高は、2008 年同期の好調な結果と実質的に一致:-2.8% (-2.1% 通貨中立的)
- 慎重なコスト管理により維持された利益は、通貨のマイナス影響を相殺
- 1 億ユーロ超の投資を商業的成長と生産活動に投入
- キャッシュフローの著しい増加: キャッシュフロー配賦額を 2 億ユーロ以上削減
- 純負債は前年度と同じだが、年度末に改善が期待される

UNITED COLORS  
OF BENETTON.

2009 年 11 月 12 日ポンツァーノ。ベネトン グループ取締役会は、2009 年 1-9 月期連結決算報告を審議、承認し、組織再編成の際に打ち出された目標達成に対する進捗状況を確認しました。

### 連結損益計算書

2009 年 1-9 月期のグループ純売上高は 14 億 9 千百万ユーロで、2008 年度の基準期間(-2.1% 通貨中立的)をわずかに下回りました (-2.8%)。前述の通り、季節要因への対応と顧客サービスの向上を目的として上半期末に決定された出荷日程の変更は、第 3 四半期中に完全に調整されました。外貨の対ユーロ下落や製品ミックスの劣化にもかかわらず、収益パフォーマンスは実質的に維持されました。その一方で、同期間に行われた直営店の店舗数拡大はプラスの影響をもたらしました。

繊維部門の売上高は 1 千万ユーロ増の 7 千 8 百万ユーロになりましたが、アパレル売上は 2008 年 1-9 月期比で 5 千 3 百万ユーロ減の 14 億 1 千 3 百万ユーロになりました。アパレル販売の内訳は、3 億 2 千 4 百万ユーロ(+1 千 2 百万ユーロ)が直販によるもので、残りの 10 億 8 千 9 百万ユーロは卸売り経路(-6 千 5 百万ユーロ)を通して計上されたものです。

既存市場における堅調な業績は、グループの主要市場であるイタリア、フランス、ギリシア、北欧諸国で達成されており、イベリア半島や欧州大陸では売上が鈍化しています。

全体で 13%(通貨中立的)の伸びを記録した新興市場においては、特にインドと中国で目覚ましい業績が達成されました。実際のところ、インドでは好調な業績の続伸や、主要エリアにおける百貨店の伸びなどを背景に、成長がさらに加速化しています。中国では、第 3 四半期および年度累計で目覚ましい成果を記録しています。これは、戦略的利益の対象地域での新規出店を伴う、販売店の見直しおよび閉鎖の初期フェーズが完了したためです。

メキシコでは、販路開拓の焦点が直販網および百貨店の双方に置かれており、冬季に 50 店舗の新規出店を予定するなど今後も拡大が見込まれています。消費低迷と通貨の弱含みが原因となり、トルコでは市場が縮小しています。ベネトンの確立された存在感は高いブランド可視性による恩恵を受けており、これは最近、イスタンブール中心部で出店された重要な旗艦店によって、さらに強化されています。

最後に、経済危機の強い影響を受けて、ロシア市場では売上数量が低迷していましたが、ベネトン グループはこの重要な市場において、依然として成長機会の獲得に注力しています。

**総営業利益**は6億8千万ユーロを計上しましたが、製品構成の違い、そして何よりも為替要因の強い影響を受けて、絶対値ではマイナスに転じました(-2千9百万ユーロ)。しかし、注目すべきは為替要因を除いた利益(売上高の45.6%)が100ベースポイントを超える伸びを見せており、売上率が2008年1-9月期の46.2%から47.3%にまで増加していることです。事実、産業および調達部門では、同期間に4千3百万ユーロの効率改善が達成されており、そのうち2千4百万ユーロは組織再編成計画で特定された活動に起因するものです。

**貢献利益**は5億7千万ユーロ(売上高の38.3%)となり、5億9千7百万ユーロを計上した2008年同期比(38.9%)でマイナスとなりました。この点においては、販売費用の低下が主な要因となりました。

**一般管理費**の削減を狙いとした2009年度年初の積極的な活動により、1-9月期には一般経費、第三者およびコンサルタント・サービス、そして広告費用(低額であったため)などの項目で、1千6百万ユーロの経費削減が達成されました。これらのイニシアチブは、直営店舗の開店に伴う給与および賃貸料、前四半期に完了した投資に起因する減価償却及び割賦償却費の見込み増を相殺しました。こうした投資には、カストレッテ配送工場の拡大に関連する投資も含まれます。

**経常外項目**は総額2千2百万ユーロ(700万ユーロの利益を計上していた2008年から、2009年には1千5百万ユーロの損失に反転)の損失を出しましたが、その大半は組織の再編成費用によるものです。

その結果、**経常外項目と為替要因を除く営業利益(EBIT)**は、前年同期比に報告された数値と横ばいになりました(2009年が1億7千万ユーロであるのに対し、2008年1-9月期は1億7千5百万ユーロを計上)。組織の再編成計画に伴う活動は既にプラスの影響をもたらしており、4千万ユーロの利益を生み出しました。EBITは、2008年同期が1億8千2百万ユーロであったのに対し、本年度は1億3千4百万ユーロとなりました。これは外貨トレンドのマイナス影響により生じた2千2百万ユーロの損失(対応ヘッジ利益含。次章で言及)、および2千2百万ユーロの経常外費用により決定付けられました。

**財務管理ハイライト**:9百万ユーロ以上の損失を計上した2008年度同期から外貨ヘッジ・トレンドは大きく反転して、2百万ユーロの利益を創出し、収益では上述した通貨のマイナス要因を部分的に補填しました。さらに、1-9月期は平均金融債務が増加しましたが、低金利の影響を受けて純金融費用は大幅に好転しました。

最後に、**純利益**は2008年同期比の1億9百万ユーロ(利益の7.1%)から、8千2百万ユーロ(5.5%)へと減少しました。同期間にグループの税率増が起きたことも考慮する必要があります。

## **連結財務状況**

**投下資本**は2008年12月31日から1億4千6百万ユーロ増で業務の循環的性質と連動しており、運転資本を変更する予定です。後者(8億4千5百万ユーロ)は完成品在庫の縮小により2008年9月30日(8億4千9百万ユーロ)時点より減少しました。

2009年9月30日時点での**純負債**は8億1千9百万ユーロで、2008年同日の値と実質的に同じとなっており、前年度の基準期間と比較した場合、年初よりキャッシュフロー配賦額が大幅に減少していることを示しています。2008年度末と比較すると、業務の季節要因に伴う大幅な改善が見込まれます。

## 連結キャッシュフロー・サマリー

営業活動によるキャッシュフローは、マイナスを記録した前年同期の 3 千 6 百万ユーロから好転し、総額 3 千百万ユーロとなりました。こうした伸びは、主に運転資本の配賦額減によるものです。

2009 年 1-9 月期におけるグループの純投資額は、2008 年同期の 1 億 8 千 3 百万ユーロに対し、1 億 7 百万ユーロを計上しました。ビジネスネットワークへの投資が大部分を占め、総額は 7 千 3 百万ユーロに上りました。投資は、店舗の改修や拡張を優先して行われました。1-9 月期においては生産拡充を推進するための投資も継続され、2 千 3 百万ユーロ超の資金が投入されました(2008 年度は 3 千 7 百万ユーロ)。

その結果、フリーキャッシュフローも、2008 年 1-9 月期の要件である 2 億 1 千 9 百万ユーロから、2009 年同期では 7 千 6 百万ユーロにまで改善されました。5 月の配当支払後の 2009 年 1-9 月期の現金配賦総額は、1 億 2 千 9 百万ユーロで、2008 年同期の配賦総額、3 億 4 千 6 百万ユーロから劇的に改善されました。

ベネトン グループ CEO のジェロラモ・カッチャ・ドミオーニは、同期間の業績について以下のように述べています：

**「9ヶ月間で達成された業績は、現在グループ内で実行されている組織再編成プロセスの決定に対する自信を深める結果となりました。ベネトンには常に、高品質な製品、強いブランド、そして継続的な投資の推進を主軸とした力があります。そして、グループは特にコスト抑制や財務管理の分野において鋭い手腕を発揮しています。1-9 月期における好調な業績を鑑みした場合、マクロ経済全体において明るい徴候が見られなかったとしても、実質的にはこれまでの 9 ヶ月間に匹敵する利益が得られるものと予測しています。経費削減が予想以上に好調であったため、ベネトンは満足のいく利益が獲得できるものと見込んでいます。年度末にかけてプラスのキャッシュフローが生まれるため、債務は 2008 年 12 月の数値を下回ることになるでしょう。」**

詳細は、下記 URL にてご確認ください。

[http://press.benettongroup.com/ben\\_en/releases/2009-11-12/](http://press.benettongroup.com/ben_en/releases/2009-11-12/)

お問い合わせ：

Media

+39 0422 519036

[www.benettongroup.com/press](http://www.benettongroup.com/press)  
[www.benettonpress.mobi](http://www.benettonpress.mobi)

Investor Relations

+39 0422 519412

[www.benettongroup.com/investors](http://www.benettongroup.com/investors)  
[www.benettonir.mobi](http://www.benettonir.mobi)

ベネトン ジャパン株式会社

広報宣伝部

中里倫子

tel 03-5474-7089

fax03-5474-7153